



さらやま

令和8年10月6日発行

No.7 文責：井上

「〇〇の秋」みなさんは何の秋ですか？

修学旅行好プレー集！

9月30日、10月1日の2日間、6年生は広島方面へ修学旅行に行ってきました。楽しむべき場所ではしっかり楽しみ、学ぶべき場所では真剣に向き合うことができ、感謝の気持ちを膨らませることができた2日間だったと思います。

はしゃぎすぎて注意されることが無かったとはいえませんが、褒めるべき場面が多い旅でした。いくつかの好プレーを紹介します。



◇バスから降りるときや荷物を出してもらったとき、運転手さんに「ありがとうございます！」と丁寧にお礼を言っている人がたくさんいました。

◇原爆資料館見学のとき、松葉杖をついていた方のために「ここなら見えますよ」という合図を送り、自分の場所を譲っている児童がいました。

◇平和集会や資料館を見学する姿は真剣そのものでし



た。平和の尊さを改めて感じていました。

◇平和記念公園では、海外から来られた方に積極的にインタビューすることができました。最初は、小さな声でしたが段々と笑顔も増えて、最後は握手したり、ミニ折り鶴をプレゼントしたりすることができました。

◇ホテルでは、室長さんを中心に、履物やスリッパをきちんと揃えている部屋がいくつもありました。

◇厳島神社で家族の健康を願って手を合わせる姿、宮島商店街で「どれにしようかな」と家族へのお土産を一生懸命に選ぶ姿・・・、どこを切り取っても、子どもたちの優しさや笑顔があふれる修学旅行となりました。

読書の秋

読書の秋です。

先日、さらやまっ子集会にて、図書委員会による多読賞の表彰が行われました。



図書委員会から「2学期は40冊以上を目標に、しっかり本を読みましょう！」というメッセージも伝えられました。

今はショート動画全盛の時代です。次々と与えられる速いテンポの刺激も魅力的ですが、一方で「じっくりと一つの世界に浸り、思考を留める時間」は奪われがちになります。

だからこそ、言葉を目で追いながら想像を膨らませる体験は、子どもたちにとっても、私たち大人にとっても、今改めて見直したい貴重な時間です。

本離れが進んでいると言われる今だからこそ、学校と家庭、地域が一緒になって、子どもたちに豊かな想像の世界をたくさん届けていきたいと思っています。

10月～11月の行事予定

ホームページに行事予定を掲載しております。

2学期の下校時刻も掲載しています。あわせてご確認ください。



裏面あります

思いを受け止める

9月28日の深いイイ話は、「勉強しなさい！」という言葉の本当の意味について話しました。(以下)

1 耳の痛い言葉

今日はみなさんにとって、ちょっと苦い薬のように感じる言葉について話します。みなさんは家や学校で、「勉強しなさい!」「片付けなさい!」「時間を守りなさい!」と言われると、どんな気持ちになりますか?

「うるさいなあ」「今やろうと思っていたのに」と、嫌な気持ちになる人もいるかもしれませんね。

でも、その言葉を言ってくれる人は、みなさんのことを心から大切に思っている、世界で一番優しい人なのです。

2 耳の痛い言葉の本当の意味

「えっ?どうして優しいの?」と思うかもしれませんね。でも、よく考えてみてください。みなさんのことを大切に思っていなかったら、わざわざ「勉強しなさい」「片付けなさい」と言うでしょうか。

みなさんのことを大切に思っていない人は、何も言いません。勉強をしなくて将来困ろうが、忘れ物をして恥をかこうが、あまり関係がないのです。「どうでもいい相手」には、誰もエネルギーを使って注意なんてしません。

それでも、あえてみなさんに嫌われるかもしれない「うるさい言葉」を伝えてくれるのは、みなさんの人生を自分自身のこと以上に大切に想い、「できることを、もっと増やしてほしい」、「自分の力で幸せになってほしい」、「将来、絶対に幸せになってほしい」と願っているからです。「勉強しなさい」という言葉の奥には、「あなたの未来をあきらめないよ」というメッセージが隠れているのです。

今日、もし誰かに注意されたら、イラッとする前に一度だけ思い出してください。

「ああ、この人は私の人生をこんなに一生懸命に考えてくれているんだな」と。そして、心の中でもいいので「ありがとう」と思えるといいですね。「ありがとう」と心の中で言えることが心の成長なのです。

みなさんの周りには、みなさんの未来を心配し、応援してくれている人がたくさんいます。周りにいる優しい人たちの想いに気づくことができる、素敵でみなさんでいてくださいね。

これで校長先生の話が終わります。

今回の話は、特に子どもたちの心に響いたようで、各クラスから提出される代表作文※には、保護者の方への感謝の気持ちが綴られていました。

(※毎回各クラスから1名選ばれ、その中から校長賞、教頭賞を選んでいます。)

校長賞に選ばれた児童の感想文を紹介します。

私はよく「ちゃんとご飯を食べなさい」と注意されます。今までは、「もうお腹いっぱい、もう食べられない!」と言って、心の中では「もう食べたくない、もう食べなくていい!」と思っていました。

けど校長先生は『食物に感謝』という話をしてくれました。そこで私は、「いただきます」、「ごちそうさま」と感謝をこめて声に出して言うようにしましたが、やっぱり食べられません。

けど、今日話を聞き、食べられなくても、「ちゃんと食べて」とお母さんが言ってくれるのは、わたしを大切にしてくれているということです。私に何も注意をしないということは、私は大切にされていないということです。

お母さんたちは、私たちの未来をかけて、『嫌われる vs 私たちのために注意する』でたたかっているのです。だからこれからは、大人の言うことを聞くことにします。

4年1組 鳥取 花帆

この文章を3回読み返しました。私の話を聞いて、しっかり自分と向き合い、正直な気持ちやお母さんへの感謝の気持ちを書いていることに感動しました。

これからも、自分と向き合ったり、生き方を見つめなおしたりできるような話ができるよう努力していきたいと思います。

読書と学力

毎年6年生が行う全国学力学習状況調査では、「平日の読書時間」、「休日の読書時間」、「家庭にどれくらい本があるか」、「図書館等の利用」など、読書に関する質問が5問ほどあります。

読書と学力の相関関係を調査し、その結果は公表されていますが、読書量が多いと学力も高い傾向は毎年同じです。

読書が学力に良い影響があることは、想像に難くありません。読書は大切だということは、誰もが感じていることなのですが、「読書する時間」の捻出が大きな課題となっています。

学校でも本に親しむ取組を行っていますが、ご家庭でも、実態に応じた取組はできないか、お子さんと話し合っていただければ幸いです。

学力を上げるために読書することが目的ではなく、「スマホ、ゲームに使っている時間を15分だけ読書に使う」、「土曜日の昼、30分親子読書」、「図書館で本を借りることにチャレンジしてみる」など、短い時間からのチャレンジ、新しい環境への第一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか。

一冊の本との出会いで読書好きになることもあります。将来の夢を見つけるきっかけになるかもしれません。ワクワクしながら本を読む経験を味わってほしいと願っています。